

# 銀ガスル 通帳改ざん 複数行員認識

## 投資トラブル 金融庁が処分検討

女性専用シェアハウスへの投資トラブルを巡り、スルガ銀行（静岡県）の複数の行員が、オーナーの預金通帳などが改ざんされたものだと知りながら融資していたことを、同行の社内調査で認めていることが分かった。金融庁もこうした事実を把握している。金融庁は不正が組織ぐるみだった可能性があるとみて、行政処分を検討している。

スルガ銀行は、シェアハウスのオーナーの大半に融資していた。銀行員が書類の改ざんを知りながら融資を行うことは、私文書偽造ほう助などの罪にあたる恐れがある。

改ざんを認識していたと社内調査に回答した行員は数十人にのぼるとの情報もあり、金融庁は確認を進めている。

スルガ銀は15日にも調査の状況について説明する予定だ。

オーナー側の弁護団によると、オーナーの預金残高が数十万円しかないのに、スルガ銀に提出された通帳のコピーとみられる書類には、数千万円に水増しして記載されている例が多く見つかったという。弁護団は、スルガ銀が融

資の稟議を通しやすくするため、物件販売会社に対し、オーナーの年収や預金などを示す書類の改ざんを指示していたと主張。スルガ銀と物件販売会社の担当者を私文書偽造容疑などで警視庁に近く刑事告発する方針を示している。

シェアハウスを運営するスマートデイズ（東京都中央区）は、オーナーから所有物件を借り上げて入居者に転貸し、賃料収入の一部をオーナーに支払っていたが、先月に経営破綻した。